

第 2 回教育検討小委員会会議結果報告書

開催日時	平成15年9月21日(日) 9:30~12:30					
開催場所	鳴子町中央公民館 大ホール					
委員の出欠 出席者 欠席者×	委員長 (古川市議会議員)	佐藤 昭一		委員 (鹿島台町議会議員)	山田 和明	
	副委員長 (鹿島台町住民代表)	小林 令子		委員 (岩出山町議会議員)	佐々木 惟夫	
	副委員長 (鳴子町教育委員会 教育長)	中鉢 亮		委員 (鳴子町議会議員)	遊佐 久和	
	委員 (古川市住民代表)	菅原 忠男		委員 (田尻町議会議員)	佐藤 久行	
	委員 (松山町住民代表)	佐藤 信藏		委員 (古川市教育委員会 教育長)	富澤 義雄	
	委員 (三本木町住民代表)	佐々木 賢司		委員 (松山町教育委員会 教育長)	田村 一男	
	委員 (岩出山町住民代表)	佐藤 真理子	×	委員 (三本木町教育委員会 教育長)	手代木 亮一	
	委員 (鳴子町住民代表)	八鍬 利恵		委員 (鹿島台町教育委員会 教育長)	安住 祥	
	委員 (田尻町住民代表)	戸島 潤		委員 (岩出山町教育委員会 教育長)	松井 一磨	
	委員 (松山町議会議員)	阿部 和夫		委員 (田尻町教育委員会 教育長)	泉澤 和雄	
	委員 (三本木町議会議員)	佐々木 吉一		出席者 20 名・欠席者 1 名		
事務局	事務局長 佐藤吉昭, 事務局次長 千葉義明, 事務局次長 岡本 透,					
	財政班: 班長 金森正彦, 主任 佐々木雅一, 班員 遠藤 愛					
	調整 2 班: 班長 中鉢正志, 計画班: 班長 千葉博昭, 班員 高橋 健					
その他						
傍聴者	一般 1 名 ・ 報道関係 1 名 (1 社)					
委員長の署名						

会議次第

- 1 開 会
- 2 開会あいさつ
- 3 協議事項
(1) 小・中学校の通学区域の課題と合併後の取り扱いについて
(2) 次回会議の開催について
- 4 その他
- 5 閉会あいさつ
- 6 閉 会

議事の概要

- 1 開会（司会進行 事務局 佐々木主任）
- 2 開会あいさつ…佐藤昭一委員長
8月22日開催の第3回大崎地方合併協議会において，小委員会委員長報告の中で前回議論された付託事項の追加について検討をお願いしたところ，協議会から付託された2項目についてのみ審議することとされ，ただし教育の理念や方針について意見を述べるが必要な場合は提言として報告してもらってよいとされた旨を報告。
- 3 協議事項
(1) 小・中学校の通学区域の課題と合併後の取り扱いについて
事務局 金森班長…資料に基づき説明。
議長 佐藤昭一委員長…資料や説明に対する疑問点はないか。
戸島潤委員…個別の学校ごとの児童・生徒数の推移が示されているが，大崎1市6町の全体数はないのか。
事務局 金森班長…前回の資料で市町ごとの現況をまとめた数字は出しているが，10ヵ年の推計を大崎全体でまとめたものはない。
議長 佐藤昭一委員長…少子化により児童・生徒数が減少し，今後複式学級にせざるを得ないところもあるようだ。教育長さん方から補足的な説明，報告はないか。
富澤義雄委員…今後合併を見据えながら全体的な学校経営のあり方を検討していかなければならないと捉えているが，今日の会議で通学区域の何を議論するのが見えてこない。将来的な複式学級・小規模校の解消というのは，全体的な学校経営の統廃合に結びついていくものだろうと思う。住民の理解を得ながら，子どもの能力開発に適した学校組織というものをどうつくっていくかという将来的な学校運営計画だと思うが，まだ合併が整ったわけでない状況で，通学区域を議論することは無理ではないか。むしろ現状のままで合併をして，将来的に住民コンセンサスを得ながら全体的な学校経営のあり方を捉えていかないと，将来の新市計画との整合性もとれない。該当する学校の保護者が混乱するのではないか。まずはゆるやかに合併をし，学校についてはそのままというのが筋ではないか。
議長 佐藤昭一委員長…今日から付託された事項について本格的な議論をお願いするつもりでいたが，最初に結論めいた意見が出てしまったようだ。他に意見等ないか。
菅原忠男委員…児童・生徒数の推移について，21年度までは実数に近いと思うが，22年度以降はまだ生まれていない子どもが入ってくるので予想できない数字ではないか。22年度以降は，傾向をつかむことはできるが数字的に信頼度が違うのでは。

事務局 金森班長…あくまでも推計値であることを理解いただきたい。

阿部和夫委員…先ほどの富澤委員の意見と似た印象を持っており、協議会や保護者から学校経営の効率化や財政面を考慮しながらのスリム化、教育のあり方を求められたのであればその議論は必要であるが、限られた時間の中での議論ということ、またこの小委員会へ付託された内容を考えれば、落ち着くところは、通学区域は現状のまま、ということになるのではないかと。

議長 佐藤昭一委員長…この小委員会へ付託した意図をきちんと認識しないと我々も議論が進まない。事務局の方からもう一度、何のために小委員会が設置されて2項目が付託されたのか説明願いたい。

事務局 佐藤事務局長…今回の合併協議では26の合併協定項目を設けたが、調整が難しい部分についてはそれぞれ小委員会を立ち上げて検討していくこととされた。この小委員会へ付託された通学区域と施設の問題は、住民の方々にとって大変身近な問題であり、先ほどから結論は見えているという意見も出ている。この期間に学区の線引きすることは難しく、まずもって住民の理解が必要。しかし、資料で示したように児童・生徒数が減少傾向にあり、複式学級も設置されている現実の中で、新市になったときにどのような方針で進めていけばよいのかを議論するのが、この小委員会の役割と捉えていただきたい。例えば、将来的に学区をはずして新たにこうするべきだとか、複式学級もこのようにあるべきだとか、場合によっては統廃合も必要に応じてやるべきだとか、そういう議論をしていただく場でないかと捉えている。その課題を受けて新市で具体的な学区の取り扱いを決めていくことになるので、ここでは将来の方向性を決めていただきたい。

議長 佐藤昭一委員長…古川市でも南中学校開設に向けた通学区のあり方が議論されているところであるが、学校はコミュニティのシンボリックなものである。住民の理解は必要不可欠で、合併を機会に学区を変更することは簡単に許されるものではない。先進事例として合併を機会に学区の変更を予定しているところもあるようだが、事務局の説明としては、この小委員会では将来の方向性を見出してほしいということなので、委員の方々にはそのことを認識のうえで議論いただきたい。どのような方針・方向性でもっていくか議論いただければ付託に対する答申をまとめられるのではないかと。

松井一磨委員…議長のまとめに理解できない部分があり、富澤委員の考えに全面賛成である。この小委員会ではなぜ学区という問題が出てきたのか、先ほどの事務局長の説明についても理解できない部分がある。合併に向けて1市6町が取り組んでいく中の教育問題ということだが、学区等の問題はそれぞれのまちの所管である。合併後のことは現1市6町に何ら権限を与えられていない。それらを全部取り払って議論したとして、へき地・複式学級の該当校ではおそらく合併反対といくだろう。この委員会が合併に向けてのものならば、その問題について議論することはあり得ない。新市の教育委員会の責任事項だと考える。現在の学区にはそれなりの理由・重みがある。新市の中で見直すということは十分あり得るが、合併へ向かっている今、学区の問題などを出されたら住民はすぐ合併反対ということになる。我々としては合併に向けてマイナスとなる作業をするべきではない。結論めいた意見、ということであるが、学区や複式学級についてここで議論することの妥当性を問うたもので、自分としてはここで学区の問題を扱うことに賛成できない。

安住祥委員…調整が難しい問題を小委員会へ付託したという説明だった。前回の会議では、具体的な議論には入らずに会議は終了したが、自分なりに学区について資料を集めてみた。文部科学省から、平成9年度・12年度に「公立小中学校における通学区域制度の運用に関する事

例集」というものが出ている。ここで議論するのは、どのようにしたらスムーズに行くのかということ、すぐに結論を出してしまうのではなく、学区に関わるさまざまな問題について詰めていくことが、後で出てくる施設整備にもつながってくると思うので、広く意見をもらうよう進めてはどうか。

佐々木吉一委員…三本木町で問題となるのは、下伊場野・高倉小学校である。松山町に聞けば下伊場野小学校は地域住民の心のよりどころであるからこのまま存続するのだという話だし、古川市に聞いても高倉小学校はこのままだという。そうであれば、何の問題もない。むしろ、通学区域の問題をここで議論するのはおかしいのではないか。先ほどの松井委員と全く同感である。また事務局に対してであるが、前回の会議について議事録をもとに議会へ逐一報告したところ大変好評であったので、きちんとした議事録をまとめてもらえればなお良い。

遊佐久和委員…先ほどまでの議事の流れは、事務局からの説明に対する質問や意見を求められていたと思う。その問題をまず決めて、本題に入ってもらいたい。そうでないと議論が混乱して何から話し合えば良いか分からない。協議事項として与えられたテーマに沿って議論を進めていくようお願いしたい。

議長 佐藤昭一委員長…本分に入ってしまったようだが、事務局からの資料・説明に対する質問は他にないか。

佐藤信藏委員…スクールバス、遠距離通学補助は合併後も続けていくのか。みなさんの考えはどうか。

議長 佐藤昭一委員長…資料は現状を示しているもので、これから議論していくこととなる。他に質問や不明な点はないか。

委員…なし

議長 佐藤昭一委員長…本題に入ってしまった部分もあるが、小委員会の設置の意義や付託の目的について意見があったようなので、事務局からもう一度説明いただきたい。

事務局 佐藤事務局長…協議会では、先ほど申し上げた26の協定項目と約2,000に上る事務事業について関係職員も含めて協議している。それぞれの項目を「新市になったならこういことをしたいのだ」という形でまとめて、住民の方々、そして最終的に議決をもらう議会の判断材料になる。協議会で決定することは、1市6町の合併が先に決まっいて、というものではない。教育や学区の問題について新市になったならこのような考え方で進めていく、という土台の議論をみなさんの知恵を借りて進めていきたいというものなので、協力をお願いしたい。

議長 佐藤昭一委員長…ここでの議論が決定事項というわけではなく、住民のみなさんの合併の判断材料となる。例えば、通学区域を変更すべき、学校を統廃合すべきという意見を出すことで住民から総スカンをくって合併そのものがだめになってしまうかもしれないため、そのこと自体を議論するのが問題だという意見が出ている。しかも学区については歴史的な一面もあるので非常に難しい議論であり、場合によっては、現場を見に行ったり住民の方々の声を聞くことも必要と認識している。しかし議論すべきではないというのであれば、この問題は決着してしまう。

富澤義雄委員…入口論であるが、例えば小委員会の総意として、学区の問題に触れる必要はなく、合併後に新市計画の中で議論すべきということが決定すればそれで良いと思う。何千とある合併協定項目になぜ通学区域が出てきているのが疑問。新市の構想というものは、合併後の教育体制、教育理念というものがあってでてくるものと思う。そこから学校規模、児童・生徒

数を全部精査し、将来の学校の統廃合や複式学級のあり方を議論してもらいたい、というのであれば理解できる。理念も方針もないところで学区について話し合うことが果たして良いものか。

八鍬利恵委員…みなさんが言うことはそのとおりだと思うが、合併によって見直すところ、整理するところ、あるいは改善してもらいたいところなど、お金に絡む部分への意見が求められているように受け止めている。自分自身、教育に関しては聞きたいことや言いたいことがたくさんある。金銭的なものも関わっているので合併を機会にいかがなものか、ということで付託されたのではないか。

遊佐久和委員…この小委員会の趣旨は、協議会規約第11条に「協議会は担当事務の一部について調査、審議等を行うため小委員会を置く」とあるので、協議事項の小・中学校の通学区の課題とは何があるのか、そして合併後にどう取り扱うのか、まさにこの問題に合わせて議論すべきと思う。本音から言えば富澤委員のおっしゃるとおりと思うが、しかし、協議会からはそこまで求められているわけではないので、協議会から付託されたことについて、このレベルの中で協議すべきと思う。

泉澤和雄委員…前回の会議では、付託された2項目は変えられないという説明であったと思うが、ではこの会議はいったい何なのかということを感じる。学校現場を預かるものとして、通学区の問題が出てくるということは考えられなかった。今ここでいろいろなことを話し合っても学区を変更しないのであれば無意味ではないか。この問題については、まず教育の基本となっている理念とか方針を検討しなければだめだということを前回申し上げた。学区の問題が先に出てきてしまっては、住民の方々が非常に動揺するのではないか。

小林令子副委員長…小・中学校の通学区の課題について、どのような問題が出てきて、それをどのように話し合わなければならないか整理してみた。合併となると、行財政の感覚からは学校の統廃合、それは教育の再編成につながってくる。しかし、そのような考え方でなくて、こういう教育が期待されるから学区をこうするべきだ、という意見をどんどん出してやるべきではないか。慎重にやるべきと思いながら考え整理してみた。

議長 佐藤昭一委員長…合併と同時あるいは直後に通学区を変更することや統廃合が前提にあるということで捉えないでいただきたい。議論の結果、当面現状ままとすべきというのであればそれでよい。しかし、合併により一つの自治体になるので、将来、教育のあり方の中で現状の通学区で良いのかを議論してもらいたい。事務局としても児童・生徒数が減っていく中で将来的にどうするべきなのか、という思いではないか。教育の理念がないと学区のあり方を議論できないというのはもっともな意見であるが、それについては冒頭報告したとおりである。一体性を持つ市となったときに現在の課題をどう解消すべきか議論いただきたい。

佐々木惟夫委員…議事録を取る関係でマイクを渡すということだが、前回の議事録には自分の発言が半分しか載っていなかった。うまくない部分があってカットされたのか。自分が何のために、どういう審議をするためにこの会議にきたのかということを上申し、私は議会の中で建設と学校の関係だからということと命じられたと発言したが、その肝心な部分が載ってなくて残念であった。前回、佐々木委員が理念について審議すべきだという意見を述べたので、それをやるのであれば2年かかる、そのために私は合併反対、時期尚早だと申し上げてきたと述べたのだが、議事録に残っていない。また、いろいろな課題があるがそれをまとめるだけでいいのか。簡単にいうと、生徒数の数だけで学校を減らすというのはもってのほかである。生徒数だけ見れば鳴子・岩出山は一つの中学校で十分に間に合う。本当であれば4つぐらいほし

いところだ。新市の活性化や住民感情というものを考えなければならないはずで、岩出山町でも中里分校を廃校するとき5年ぐらいの時間を要した。数の理論だけではだめだ。我々が今ここでどうしろこうしろと言うよりも、新市ができた時点でこのデータに基づいて今後どうすべきかを定める方が簡単明瞭に行くのではないか。数だけの理論で、例えば学校を統合すべきという結論を出して住民懇談会で説明したときに理解が得られるはずがない。そのようなことを踏まえれば、合併後にどうすべきかを決めていくのが無難なのでは。

議長 佐藤昭一委員長…その方向性を見出し、一定の結論が出ることがこの小委員会に求められているのではないか。

佐藤久行委員…合併までは現状のままとし、新市になって3年後、5年後にまた新たな問題が出てくることも考えられ、国からの教育方針もさまざま変わると思うので、その時に通学区域や学区制の問題を考えていくようにした方がいいのではないか。

菅原忠男委員…前回、学校教育だけでなく生涯学習についても踏み込んで議論するべきではないかということをお願いしたが、物理的にどうにもならないので、まずは付託された事項を優先して考えることとされた。協議事項の文章表現から、自分としては、現在の子ども数、学校規模、通学距離、その他諸々のことを考えたときにだいぶ不合理な点があるので、不合理な点を解消するために通学区域の見直しが必要だ、そのためには各市町の教育の姿をできるだけ浮き彫りにして検討を加えていくというのがこの小委員会の性格なのだと思われ止めた。新市の教育委員会へ任せたらよいのではないかという意見も出ているが、私の解釈でよいのか。

議長 佐藤昭一委員長…合併協議会の組織体系の中に、職員で構成されている部会がある。教育部会の中でもこの問題について議論しているようなので、参考までに資料として出してもらってよいか。事務局から説明をお願いしたい。

事務局 金森班長…菅原委員からお話があったように、各市町にそれぞれの課題があることと思う。新市になったときにその課題をどう解決していったら良いのかを議論いただきたい。ほとんどの先進事例でも、学区は従来どおりとし新市において検討する、と報告されている。ただし、その裏に地域ごとの課題があると思うので、その部分をここで議論していただき新市へ引継いでもらいたい考えである。

(資料配布)

資料に基づき説明。複式学級の考え方、30人学級、学校選択性について事務レベルで意見を出してまとめたものである旨を説明。

議長 佐藤昭一委員長…もう一度整理する意味で10分間の休憩を取りたい。

(休憩 10:50~11:00)

議長 佐藤昭一委員長…先ほど二人の委員から議事録について意見があったようなので、まずそのことについて事務局から説明をお願いしたい。

事務局 金森班長…会議録のまとめ方について要点筆記であることを説明。

佐々木惟夫委員…要点をまとめているということだが、議会で8回もの審議を重ね、自分がなぜ委員として選ばれてきたかという重要なことを述べたのだが、その要点部分が載っていなかった。

事務局 金森班長…事務局でも発言内容をできるだけ漏らさずまとめるよう努力したい。

議長 佐藤昭一委員長…議会の議事録のように一言一句記録されるものではないということなので、できるだけ要点部分をくみ取って会議録をまとめるようお願いしたい。

これまでさまざまな意見が出されてきたが、小委員会に期待されている点は事務局から説明が

あったとおりである。議長の立場から結論めいたことを申し上げるべきではないが、合併と同時に住民の合意を得ず通学区域を変更することはすべきでないという意見が出ているので、我々としては合併後の学区のあり方の方向性を出すことが精一杯かと思う。それを新市の教育委員会で、学区のあり方、教育のあり方を考える際の材料としてもらえれば良いかと思う。そのために課題を出し議論していきたい。そこで、教育の現場を預かる教育長さん方に各市町にどのような課題があるのか、またその課題を合併して1つの市になることで解決できるのかをうかがいたい。

(各市町教育長から発言)

田村一男委員…松山町では二つの小学校があるが、保護者から現状の学区について不平・不満は出ていない。むしろ下伊場野小は複式学級になっているが、保護者からは子どもの数を増やすように努力するので学校は存続して欲しいと要望されている。課題はないかという質問には、我が町では課題はない、と申し上げた方がよいと受け止めている。ただし、一言付け加えれば、新市になったときに、財政運営の中で学校運営の効率化など絡んでくると児童・生徒の数を見ながら学区の見直しが図られることもあるかと思う。

手代木亮一委員…三本木町では、組合立の解消あって、下伊場野と高倉の見直しが図られた。現在は1町1校という形で進み、コミュニティづくりの中で良い成果があげられている。

安住祥委員…鹿島台町では、小学校2校、中学校1校ということで、学区については特に問題はない。ただし、これから学校の耐震診断など施設整備を行っていく中で学区制というのは避けて通れない問題となるのではないか。事務局としてもこうあるべきというのをあげているわけではないので、問題を出して、また先ほど申し上げた方法もあると思うので、解決策を議論してはどうか。

松井一磨委員…岩出山町では、1中学校、5小学校、1分校があり、結論を出す場合には新市へこのまま移行すべきだという考えだけである。町内の小規模校では、子ども達の活性化ということで、学校行事の連携を図り、集団宿泊及び修学旅行の共同化を行っている。学区の再編については、町の懇談会の中で1ヶ所話題にされたが、これは学校をつぶすことはないですよ、という確認であった。町長・議長に対して、合併に向けて不安定な時期にこのような小委員会を作ってどうするつもりなのか質問したところであるが、岩出山町では、合併までは現状の学区のままにいくというのが教育問題についての暗黙の了解である。

議長 佐藤昭一委員長…新市に移行した際に、将来的に小規模校をどうするかという考えはあるか。

松井一磨委員…将来、新市の教育委員会の責任と権限において新しいものを作るということはあると思う。しかし、現教育委員会としては、住民から新市においてどうするのかということを知られていない以上何とも言いようがない、つまり、現状の学区のまま新市へ移行するという考えである。

泉澤和雄委員…田尻町では、中学校1校、小学校3校であるが、問題とされているのは新市になったときの学校の改築である。小学校は、合併前に大規模改修が終了する予定であるが、中学校は平成17年度に予定している。話を伺うと、古川市では耐震改修が3割程度しか進んでいない、全てを終えるには20年、30年かかるということを知っている。通学区域については、現状維持でということで、特に問題はない。

中鉢亮副委員長…鳴子町では、中学校の統合問題が大きな課題となっている。昭和40年代、50年代にも浮上した問題であるが、住民の方々の理解が得られず先送りにされてきた大きな

行政課題であった。予定どおり平成18年度開校で進むかどうか現段階では明確に申し上げられない面がある。また、中山小学校がかなり小規模化している状況で、保護者の中にはこのままで良いのかと考えている方もいる。住民の意向を加味しながら将来の課題として受け止めているが、学校の統廃合は慎重に考えていかなければならない。先ほど安住委員から話があったように平成9年度から通学区域の弾力的な運用について文部科学省から通知が出されており、鳴子町でも家庭の事情等を考慮して運用しているが、通学区域については、子どもの教育を考えたときどのようにしてやるのが一番良いのかが議論の中心になるのではないかと考える。通学区域については長い時間をかけて、住民の理解を得ながら進めていくべきことと考える。

富澤義雄委員…古川中学校の大規模解消が一番の課題であるが、平成18年には仮称古川南中学校を建設予定で大規模校の解消に落ち着くよう準備を進めている。複式学級のある学校も、地域に支えられてしっかりと子ども達も学んでいる状況で特に大きな課題は抱えていない。むしろ、合併後に多くの小・中学校を抱える教育委員会の体制をどう整備していくのかに関心がある。どれだけの教育予算を新市で準備し、それに対して県はどう答えてくれるかが関心事である。通学区域については現状維持をしていくのが当たり前という認識であり、それで合併すべきと思っている。また、合併後の市民教育、生涯学習のあり方をどのようにしていくのか、一体的な行政運営のできる基盤づくりをどう進めていくのかという問題の方が重要な課題だと受け止めている。

議長 佐藤昭一委員長…教育委員会の中では、通学区域については現状維持で新市へ移行ということで意見が統一されているようだ。しかし、財政面から学校運営を考えたとき、また耐震・大規模改修という問題が絡んでくるとそれぞれ課題があるようだ。現に鳴子町では統合に向け問題が浮上しているし、小規模校についても現状のままで良いのかという意見があるようだ。合併時は現状のままでということは共通で認識されているが、それぞれの市町で持っている課題は検討の材料になるのではないかと。我々の議論としては、合併時に学区を見直したり学校の統合をすることはできないようなので、合併後に、今の課題を解消するためにこうすべきであるという一定の方向性を出すというまとめ方をしていきたいと思う。

阿部和夫委員…協議会から付託されているこの小委員会は期限もあり、基本的には合併協議会の作業に支障をきたさない条件の中で役割が課されていると思う。泉澤委員が発言したとおり、理念や指針がない中での議論は本末転倒である。しかし、せっかくグループを組んだわけであるし、今後の教育のあり方についてこれまでの反省を踏まえて考えていかなければならない。30人学級、複式学級のあり方について判断するには、もっと研修を受けたり現場を見る必要があり、たたき台となる材料をもらって我々の意見を述べ、一つの結論へ持っていくという進め方になるのではないかと。時間が許せば、さまざまな立場の人から問題提起を受けて、我々も知識を得た上で議論を交わし、新市においてはどうかという結論を導く作業であれば良いのではないかと。そのようなことが可能であるのか。既に市の財源を持ち出しながら既に30人学級に踏み切っている例があるが大崎としてはどうするのか、また広域合併ということで、学区の見直し、学校の統廃合や複式学級をどう考えていくか、こういう問題について委員のみなさんが意見を出しながら答申をまとめていけば、この小委員会としての役割を果たせるのではないかと。

議長 佐藤昭一委員長…我々も教育の問題についてどれだけ把握し、住民の方々の声を聞いているかということではない。見識のある方から研修を受けるのも良いのではないかと。提言もあったが、規程でも有識者から説明・助言を受けることはできるとされているので、次回以

降にもし良ければ事務局とも相談しながら進めていきたいと考える。自分自身も高倉小学校へ視察に行った経験がある。校長先生の話では、小学校では大変仲良く学校生活を送っているので問題はないが小規模校から中学校へ上がった時のことが心配だという話を聞いたこともある。複式学級や分校などの現場を見る機会、保護者や先生方の話を聞く機会も設けて一定の方向性を出すことも必要なかと感じている。事務局と相談し、時間が許せばそのような時間を設けること、阿部委員の意見のように有識者から話を伺って議論を交わすことなど検討したいと思うが委員のみなさんの意見はどうか。

戸島潤委員…先ほど委員長からは、まず合併後のことについて意見を求められていたと思うのでそのことについて述べたい。合併後も現状を維持することが必要だと考えている。都市部に人口が集中し地方部の人口が減ってきている、だから学校を廃止していくという考え方では人口の集中化は止まらないと思う。学校がなくなれば地域コミュニティが崩壊して、どんどん不便になって、それなら都会に住もうかというように流れが加速していくと思う。子どもの数が減ったから、財政が厳しいから統廃合するというのは身勝手な大人の考えではないか。都市部に人口が流れていくことを助長すべきではないと思う。新市の方針として、人数が減っていくのであれば、その地域にどれぐらいの人が住むのが望ましいかを考え、人口を流動化させるような政策をとるべきではないか。現状を維持した上で生徒数を維持させる施策をとれば、人口14万人を維持していくという課題にもつながっていくのではないか。

佐々木吉一委員…教育部会からの資料であるが、このような意見がでてるのであればそれでいいのではないか。どういう意味の資料なのか。三本木町では複式学級については現在のままでいこうという考えである。30人学級については、宮城県が一番遅れているということを知っているが、努めて30人学級に移行すべきであるという考えである。新市における学校選択性の考え方については、弾力的に考えて良いのではないか。個人的には新市の学区はグローバルに考えて良いと思っており、そのことで学校教育の質を高め、子ども達の人間的な素質を磨いていく、それが新市の発展の基礎になると考えているので、当分は弾力的に取り扱ってはどうか。

遊佐久和委員…委員の意見が偏ることがないように、21名の委員みなさんの意見を聞いてもらえるようにしてもらいたい。またテーマを絞りながら話を進めないと、教育問題は必ず神髓まで突き刺さり、幅が広がりすぎてしまって、まとめる委員長さんも大変ではないか。

議長 佐藤昭一委員長…みなさんから積極的に発言されているようだが、進め方に気をつけながら進行していきたい。

松井一磨委員…教育部会からの資料はどのような性質のものなのか。事務レベルで相当検討したと思うがそれがここにはほとんど載っていない。資料として配ったということであるが、これは資料になるのか。この内容を認めたということにはしたくない。

事務局 金森班長：本来事務レベルの考えを示す必要はなく、みなさんの方から複式学級の考え方や30人学級の考え方の意見を出していただいて、課題を見出せばよいのであるが、方向性が見えないということであったので、参考の参考として事務局レベルではこのような話し合いがなされていたということを示したままである。この資料に左右されることは一切ない。

議長 佐藤昭一委員長…本日の会議について一定の整理をしながら、次回どのような議論をするのか、また事務局にどのような資料を求めるのかということを決めていきたいと思うが意見はないか。

菅原忠男委員…学校現場において通学距離に疑問を感じるものがたくさんある。極端な話をすれ

ば、近い学校があっても学区があって遠くの学校に行かなければならないという例。歴史と住民感情があってもならない部分がある。新市になって学区を見直すときには、行政区の区割りも考慮するべきではないか。また小規模校の現場を見ることや有識者の話を聞くことも我々の研修になるのでは。本日は通学区域の課題が協議事項であったと思うがその内容にほとんど踏み込んでいない。次回もまた今日のような会議となったとき、今日の論点から外れることがないように予想されるがどうか。

八鍬利恵委員…母親の立場として小・中学校の通学区域について不安がある。例えば鳴子小学校までは繁華街の中の狭い道路を通らなければならず、冬場の状況や交通状況を考えたとき学校に通うことすら不安に思うほどである。眺めの良い素晴らしいところにあるが、そういう意味では小学校の場所として不安に思う。このような地区それぞれの不安・不満というのは必ずあると思うので、委員のみなさんも地元に戻って生の声を聞く必要があるのではないかと。そして学校の良いところ悪いところをあからさまに出すことで、合併後にその課題をどうしていったら良いのか方向性を出せるのではないかと。課題や問題がないはずはないので、自分自身も勉強し、情報収集して次回に望みたい。

佐々木惟夫委員…小委員会規程の「有識者を出席させ」という表現は、有識者に対して使う言葉ではないように感じている。小学校、分校、中学校のどこか学校を選んで我々の方から足を運んで意見を伺うべきではないかと思っている。

戸島潤委員…事務局に次回の会議まで、各通学区域での問題や不満としてあがっているもの、各学校までの平均距離、安全度のチェック、また現在の学校数を維持した場合に必要な経費とそれを新市の財政規模で賄えるのか、ということ資料として準備いただきたい。

安住祥委員…次回は我々に何を話し合ってもらいたいのか、事務局から会議の通知と一緒に示してもらえば、それぞれが意見をまとめてきて会議も効率的に進むのではないかと。

議長 佐藤昭一委員長…戸島委員から求められた資料については事務局の方をお願いしたい。本日と次回で学区の問題を集中的に議論しようという予定であるので、本日結論を出すことはしない考えである。次回に議論を深めていただきたいと思うが、現在抱えている課題を合併後に市町の境界がとれた1つの市としてどうしていくべきか考えていきたい。私の意見としても、委員の要望としても、現場を見てはどうかという声があり、例えば次回は午前中に複式学級や分校の様子を見て、可能であれば校長先生や住民の意見などを聞いて、午後から会議をするというのはどうか。

遊佐久和委員…次回は田尻町のスキップセンターが会場であり、時間的なことを考えるとその周辺の視察になるのではないかと。しかし実際に問題になるのは、鳴子町や岩出山町などの小規模校と古川市の大規模校の両極端なケースではないか。ここの問題を問わずに全体的に見ても意味がないのではないかと。次回は時間的に無理だと思ってしまうので、現場を見るよりも委員の意見を集約する方が良いのでは。

議長 佐藤昭一委員長…21人の委員の意見だけで良いというのであればそれでも構わないが。

遊佐久和委員…学区の問題は、大規模校と小規模校の課題として二つに分かれると思う。個人的には、新市になった時、学校には伝統や歴史、地域性があるということ、一方で学校を選びたい人もいるという状況を考えてときフリーにしたら良いのではないかと。申し上げたいのは、次回の午前中だけで課題があると思われる学校を全て見に行く時間的な余裕はないということである。

議長 佐藤昭一委員長… 10/9に午後から会議があるので、午前中の時間を活用してはどうかと思い提案したもので、必要であれば1日別な日程を取っても良いと思う。他に意見はないか。

松井一磨委員…なぜ、突然視察という話になったのか。合併することで、学校の統合もあり得るということを住民が知っている地域へ視察に行ってもらいたい。岩出山ではそのような議論をしていない。小委員会の委員が学校へ来て親や教員の話しを聞いたりすることで、住民達は小委員会では何をやっているのか、合併とともに学校がなくなるのか、そういう不安を抱きかねない。小委員会が合併にマイナスとなるようなことはすべきではない。視察するのであれば、そのような波及効果が出てこないようなところへ出向いてもらいたい。岩出山町では学区の見直しについて何ら議論されていないし、そういう状況の中で住民の60数%が合併に賛成しているので、小委員会として乗り込んできて議論するということはやめてもらいたい。

議長 佐藤昭一委員長…委員が出向くことで住民に混乱が生じるのであれば、受け入れ側に事情を伝えた上でそれでも構わないというところへ視察に行くことになるかと思う。

阿部和夫委員…学区の問題は一応結論が出たように認識している。視察しようとしている複式学級は教育の中身の問題ではないか。

議長 佐藤昭一委員長…付託された事項について結論を出すための材料として視察を提案したものだっが。

遊佐久和委員…参考資料の方へ話が流れていったりしているので、テーマを絞り込みながら、付託された事項だけ協議してもらいたい。

佐々木惟夫委員…議長からは、次回の会議をどうするか、視察を加えるかどうかということ投げかけられているのではないか。

議長 佐藤昭一委員長…課題について議論するための判断材料の一つになるだろうと思い視察について提案したもので、付託事項以外のことを議論しようとしているのではない。現場を見たいという意見があるものの、視察に行くことがマイナスの要因になるというのであれば、視察はしない方がよいか。

佐藤信蔵委員…下伊場野小学校区出身であるが、合併後の学区を考える材料になることがたくさんあると思うのでぜひ見てもらいたい。我々の地域では、合併することで複式学級を解消することができるのではないかと考えている。先ほどから話を聞いていると、自分の町や自分の学校のことだけを考えた意見しか言っていないように感じる。住民代表としては、できるだけ子ども達が歩いて通える地域に学校を残してもらいたいという思いである。

議長 佐藤昭一委員長…佐藤委員からは、ぜひ下伊場野小学校を見に来てもらいたい、という意見であったが、10/9の午前中に視察することは可能か。教育長さんいかがか。

田村一男委員…教育委員会としては、合併の説明会の際にもいろいろ意見が出された地域でもあり、松井委員の話でもあったが、住民の間で先日の視察は学校をなくすために来たらしいなどという噂が噂を呼ぶことになりかねない。それでは合併が後戻りしてしまうので、突然地域に入り込んでいくということは控えた方が良いのではないか。

佐々木賢司委員…もう一つの付託事項に施設の問題があるので、そちらで視察をすることにして、今回の学区に関わる視察はしない方がスマートで良いのではないか。

小林令子副委員長…同感である。ただ施設を視察する際には、ぜひ校長先生の意見を伺いたいと思うので、その時は事務局に配慮いただきたい。

議長 佐藤昭一委員長…学区に関しての視察については、さまざまな事情があるためできない

ということによろしいか。

阿部和夫委員…小委員会是一个の市民権を持っていると思うので、地域に入っていくことは構わないのではないか。むしろ隠れて活動するべきではない。遠慮したり、自分の地域の利害関係ばかりを言っていたのでは、現場の調査や確認はできない。視察については、もう少し時間をかけて判断されてはどうか。

議長 佐藤昭一委員長…この21人だけでなく、できる限り現場を見ながら、住民のみなさんの声を聞きながら、学区のあり方について将来的な方向性を出したいと思ったのだが、視察については本日新たに提起したことだったので、次回もしくはその周辺で検討し、結論を出すこととしたい。本日は、将来の方向性について結論を出すことはできない。しかし、一致しているのは合併時に学区を変更するのではなくて現行のままやらざるを得ない、という考えである。しかし、合併後の一定の方向付けについては、今日出された意見なども踏まえながら、次回議論していきたい。また、八鍬委員が発言されたように、意見を出すためにも、それぞれの地域の実態を調べて、課題や問題点をまとめてきてもらいたい。また、教育部会から示されている複式学級のあり方、30人学級の問題、学校選択制の問題などについても、一定の方向をまとめていきたい旨を確認。

(2) 次回会議の開催について

事務局 金森班長…資料に基づき説明。

議長 佐藤昭一委員長…10月9日(木)午後1時30分から田尻町スキップセンターにおいて第3回目の会議を開催することを確認。

4 その他

事務局 金森班長…「みんなで考えよう新市まちづくり懇談会」について説明。

5 閉会あいさつ…小林令子副委員長

6 閉会